

ベルマーク運動の歩み

ベルマーク運動は、1960年に始まりました。
運動スタート時には、参加校はわずか2263校でしたが、
現在は約2万5000の学校・団体が参加しています。
時代の流れと運動のあゆみを紹介します。

1957
|
2025

年度	財団の出来事	国内外の出来事
1957	全国へき地教育研究連盟が朝日新聞社にへき地学校支援を要請	なべ底不況(57年下期～58年下期) 58年 日清食品、世界初のインスタントラーメン発売 正田美智子さん皇太子妃に内定、ミッチーブーム 岩戸景気(58年下期～61年下期)
1960	へき地学校などの教育設備の整備・充実を目的とする「財団法人教育設備助成会」(現・ベルマーク教育助成財団)の設立	閣議、国民所得倍増計画を決定
1961	全国のPTAに運動の参加を呼びかけ参加PTA数2,263校でベルマーク運動が実質的に始まる 広島県呉市の上山田小学校から、初の証票小包が財団に届く(4,090点) 東京都文京区の茗台中学校が全国初のお買いもの	実質経済成長率14.5% 坂本九の「上を向いて歩こう」が大ヒット
1963	へき地学校への援助事業が始まる	
1964	ベルマーク資金の累計が1億円を突破	新潟を中心に大地震 東海道新幹線開通 東京オリンピック開催、女子バレーなど金メダル いざなぎ景気(65年下期～70年下期)
1970	「月刊ベルマーク」(現・ベルマーク新聞)創刊	
1972	沖縄の本土復帰を記念して「ベルマークで沖縄の小中学校に教育設備品を」の全国運動を展開	73年 第一次石油危機 74年 高校進学率90%を越す 76年 戦後生まれ、総人口の半数を超える

年度	財団の出来事	国内外の出来事
1977	大阪朝日ビルでPTAへの初の説明会	平均寿命、男性72.69歳世界1位、女性77.95歳でスウェーデンとともに1位 81年 宅配便の取扱い約1億個で、郵便小包（書籍除く）を抜く
1982	ベルマーク証票総累計100万点校が、1,000校を超える	
1984	三宅島噴火（1983年10月）の被災校を支援 長野県王滝村地震の被災校を支援	
1985	養護学校への援助が始まる	
1986	盲学校の全70校に点字図書を贈る	
1989	ベルマーク資金の累計が100億円を突破	東西冷戦の終結
1990	財団30周年記念事業で 海外援助・聾学校援助が始まる	
1991	海外の日本人学校への援助も始まる	長崎県の雲仙普賢岳で大火砕流
1992	長崎県雲仙普賢岳噴火の被災校を援助	
1993	北海道南西沖地震奥尻島の被災校を支援	
1994	阪神・淡路大地震の被災校援助（神戸市・西宮市・芦屋市の教育委員会へ）	95年1月 阪神・淡路大地震
1995	阪神・淡路大地震の被災校に対して各地のPTAからの緊急援助申込が続々集まる	
1996	阪神・淡路大地震の被災校へ援助継続	
1997	財団の援助対象を拡充し、国内外の教育活動全般に広げる 財団名を「教育設備助成会」から「ベルマーク教育助成財団」（呼称・ベルマーク財団）に改称 病院内学級に初の援助、「ソフト援助」の第一弾として「一輪車講習会」始まる	
1998	へき地学校などへの年次教育助成事業に加えて、新たに「ベルマーク資金」を直接援助に生かす「友愛援助事業」を始める	

年度	財団の出来事	国内外の出来事
1999	小規模の学校を対象に理科の実験や工作をする「実験教室」を開催	
2000	「友愛援助」への寄付校・園に盾を贈呈 財団設立40周年記念事業としてベルマーク運動貢献校に盾を贈る 有珠山噴火被災校援助	三宅島の雄山噴火
2001	「友愛援助」への寄付校・園に盾を贈呈 三宅島噴火被災校援助	米国で同時多発テロ
2002	「緊急友愛援助」でアフガニスタンの戦災孤児救済 ベルマーク資金の累計が200億円突破	東ティモール、インドネシアから独立
2003	運動参加校が28,000校を超える	
2004	新潟県中越地震の被災校救援で「緊急友愛援助」を呼びかけ、第一次援助を届ける	スマトラ沖大地震
2005	新潟県中越地震の被災校援助を継続、新潟県中越地震援助累計は186校6,200万円相当に 福岡県西方沖地震救援に280万円相当、三宅島に帰島した子どもたちの激励援助として150万円相当を抛出	CO2削減の京都議定書発効
2006	公民館、生涯学習センターなどの社会教育施設や大学、短大などベルマーク運動の参加資格範囲を拡大 2年ぶりに校舎を新設し、授業を再開した新潟県山古志小中学校に激励支援として100万円相当の援助	
2007	玄界小中学校の授業再開の激励援助 能登半島地震の被災校援助 財政再建団体の北海道夕張市の小中学校へ激励援助 新潟県中越沖地震の被災校援助	
2008	財政再建団体の北海道夕張市の中学校へ激励援助 岩手・宮城内陸地震被災校援助 中国・四川大地震、ミャンマー大水害の被災援助 ミャンマー大型サイクロン被災のヤンゴン日本人学校援助	中国・四川大地震
2009	財政再建団体の北海道夕張市の中学校へ激励援助 中国・四川大地震、ミャンマー大水害の被災援助	
2010	50周年記念事業 「ベルマークファミリー」キャラクター誕生 ベルマーク版オーサー・ビジット開始 奄美集中豪雨緊急援助	

年度	財団の出来事	国内外の出来事
2011	<p>お買いものメニューとして「教育応援隊」スタート 公益財団法人に移行（6月1日付） 台風12号（和歌山・三重・奈良）被災校援助</p> <p>東日本大震災で被災した257校に各50万円相当の設備品などを贈るほか、緊急友愛援助、震災支援寄贈マークの呼びかけを開始 東日本大震災復興支援活動報告会を東京で開催</p>	<p>3月11日に東日本大震災発生。M9.0、最大震度7。巨大津波が発生し18,400人超の死者・行方不明者 東京電力福島第一原子力発電所で水素爆発・炉心がメルトダウン</p>
2012	<p>標語コンクールの最優秀作品をモチーフにしたポスター製作 ベルマーク資金の累計が250億円突破 九州水害被災校援助</p> <p>東日本大震災被災校援助として部活動などの移動バス専用300万円支援を試験的に実施。以後毎年度、岩手・宮城・福島の小中学校に備品代・バス代の援助を継続実施</p>	<p>消費税増税法が成立</p>
2013	<p>財団の本拠事務所を東京都中央区築地に移転 ウェブベルマーク運動スタート へき地ソフト援助の試験事業として出前アート教室を2校で実施</p>	
2014	<p>ホームページの全面改訂 広島市の土砂災害被災校を援助</p> <p>・協賛会社キューピーによる東日本大震災被災校支援の特別寄付が3年間で9800万円。さらに2年間継続</p>	<p>消費税が5%から8%に</p> <p>広島市北部で集中豪雨による土砂災害で74人が死亡</p>
2015	<p>ベルマーク大使の創設 55周年事業としてベルマークシール、スタンプなどを製作</p> <p>東日本大震災の被災地で、学校外での子どもの居場所提供や学びの支援をしている「寺子屋」的団体への支援を開始（2019年度まで） 福島・水俣の中学生交流事業に50万円支援。以後毎年度継続中</p>	<p>ネパールで大地震、9000人近く死亡</p>
2016	<p>ベルマーク財団の業務を統合して効率を上げるため、名古屋・福岡の両事務所を閉鎖</p> <p>熊本地震で県PTA連合会の要請をうけ、栄養補助食品17,500食の費用約300万円を緊急支援 熊本・大分両県の被災校90校に2450万円相当を支援。緊急友愛援助を呼びかけ</p>	<p>新潟県糸魚川市で大火 熊本県熊本地方でM6.5の前震とM7.3の本震が発生、益城町などで最大震度7を観測。熊本城など多数の建築物が損壊</p>

年度	財団の出来事	国内外の出来事
2017	<p>九州北部豪雨で朝倉市と日田市の3小学校に、計155万円相当を支援</p> <p>熊本地震で前年の支援対象にならなかった被災校14校（8小学校・6中学校）に総額300万円相当を支援</p>	<p>7月に九州北部豪雨。福岡・朝倉地方と大分・日田地方で死者・行方不明者が40人超す</p> <p>那須のスキー場で雪崩、高校生ら8人死亡</p>
2018	<p>ベルマーク大使第2陣を6組9人に委嘱</p> <p>西日本豪雨で被災した岡山・広島・愛媛3県の43校に総額920万円相当を支援</p> <p>北海道胆振東部地震の震源地周辺の厚真・安平・むかわ3町の被災校8校に総額200万円相当を支援</p> <p>ウェブベルマーク協会から届いた助成金1387万円のうち約830万円は羽生結弦選手のスケート靴のチャリティーから。チャリティーは2019年にも実施</p>	<p>フィギュアスケートの羽生結弦選手が五輪2連覇</p> <p>大阪府で震度6弱の地震。登校中の小4女子がブロック塀の下敷きになり死亡</p> <p>7月に「西日本豪雨」。死者200人超</p> <p>9月に北海道胆振東部地震。最大震度7</p>
2019	<p>事務合理化のため大阪事務所を閉鎖</p> <p>台風15号、台風19号による被害を受けて、福島・栃木・千葉・長野の4県の被災校50校に計800万円相当の支援</p> <p>ベルマークを受け付けた学校・団体のリストのHP上での表示を開始</p>	<p>元号が5月から「令和」に改元</p> <p>アマゾンで広範囲な森林火災</p> <p>台風15号が千葉県に上陸、送電網に深刻被害。台風19号では東北・関東・中部地方に甚大な浸水被害</p> <p>消費税が10%に</p>
2020	<p>新型コロナ禍で、全国94カ所で予定していたベルマーク運動説明会を全面中止</p> <p>代替措置としてHP上に「バーチャル説明会」コーナーを設置</p> <p>財団事務所も一時閉鎖（4月～5月）</p> <p>熊本豪雨で8校に170万円相当の支援</p>	<p>新型コロナウイルスの感染が拡大</p> <p>3月から全国一斉休校</p> <p>4月に緊急事態宣言</p> <p>その後も感染者は第2、第3波と増加</p> <p>7月に九州で大雨。熊本県を中心に大きな被害</p>
2021	<p>新型コロナ禍でベルマーク運動説明会が2年連続の中止に</p> <p>ベルマーク預金残高をHPから確認できるシステムが稼働</p> <p>友愛援助の対象事業に初めて「子ども食堂支援」が加わる</p> <p>財団事務所を東京都墨田区両国に移転</p>	<p>熱海で大規模な土石流災害</p> <p>コロナの緊急事態宣言下、1年延期された東京オリンピック・パラリンピックが無観客で開催</p> <p>米メジャーリーグで二刀流の大谷翔平が満票MVP</p>

年度	財団の出来事	国内外の出来事
2022	<p>新型コロナ禍が続く中、ベルマーク運動説明会が3年連続で中止。一方で、9月に東京・有明の東京ビッグサイトで「GOOD LIFEフェア2022」(延べ2万人来場)に財団ブースを出展し、運動PRを実施</p> <p>個人などで集めたベルマークを財団に直接送る「寄贈マーク」が増加し、年間5千件を超える</p>	<p>ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続く</p> <p>急激な円安、10月には1ドル150円台に</p> <p>サッカーワールドカップカタール大会で、日本代表がドイツ、スペインを破る快進撃</p>
2023	<p>トルコシリア大地震の緊急友愛援助を募集し、総額約200万円を支援</p> <p>能登半島地震(2024年1月)で緊急友愛援助を募集</p>	<p>将棋 藤井聡太名人が史上初の「八冠独占」を達成</p> <p>10月から、インボイス(適格請求書)制度が導入</p> <p>イスラエル軍がパレスチナ自治区ガザで戦闘を開始</p>
2024	<p>能登半島地震で緊急友愛援助を6月まで延長して募集</p> <p>財団業務に使用する基幹システムに、「マルチパーパス型」を新たに導入</p>	<p>パリ五輪 日本勢のメダルラッシュ</p> <p>能登半島地震の被災地域で、9月に記録的な大雨の被害</p>
2025	<p>緊急友愛援助で能登半島地震の被災校28校に対し24年度分と合わせ1,100万円相当を支援</p> <p>65周年「ベルマークTシャツデザインコンテスト」を開催</p>	<p>大阪万博 キャラクター「ミャクミャク」も人気。1970年の大阪万博越えの入場者数に</p> <p>大リーグで大谷翔平選手の「二刀流」の活躍が続く。ナショナルリーグのMVPを3年連続4度目の受賞</p> <p>高市早苗氏が日本初の女性首相に就任</p>